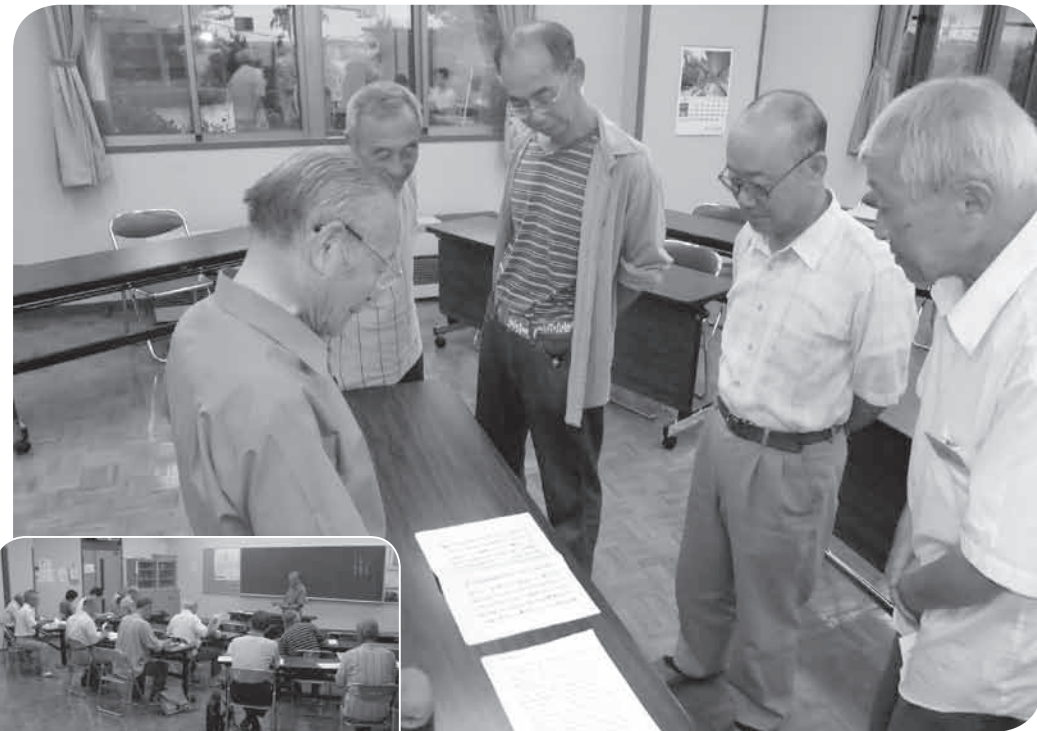


身近な歴史を学ぶ



～解説説明が中心の講座～

～講座の前に講師に質問する受講生～

今月号の特集
●なかの21市民講座
●中高女性団体研修会

受講生からは「題材の古文書が身近な地域の物だから興味深い」「家にある過去帳が読めるようになりたい」と思っていた」との声がありました。

現在、27名の受講生が毎月1回（第2月曜日・19時～20時30分）来

年3月まで受講します。講座は、受講生が事前に教材となる古文書を解読し、講師の岩戸貞彦先生（高井地方史研究会）の説明を受けながら学習します。

近世文書（古文書）講座は、西部公民館は毎年、地域に残る江戸時代の古文書を読み、歴史を学ぶ「近世文書（古文書）講座を開催しています。7月13日は15名が学習しました。

近世文書（古文書）講座

2009

No.53
(通巻No.585)

8

発行 中野市中央公民館
編集 文化なかの編集委員会
〒383-0025
中野市三好町一丁目4番27号
TEL 0269-22-2691
FAX 0269-26-2342

あおぞら

地球温暖化は深刻な問題であるとして、「低炭素社会づくり」が叫ばれている。

原因は、電気やガス、ガソリンなどのエネルギーを使うことで発生する二酸化炭素であり、一人ひとりがこまめなエネルギーの節約を心がけるなどして、みんなで一致協力してこれを減らしていこうとのことである。

確かに、地球温暖化を防止し、次の世代にも今の地球環境を守り、残していくことは、今を生きる私たち世代の責任であると思う。私にできることは、まずはエアコンやテレビ、自動車などのエネルギーの使用をさらに控える努力をしていくことであろう。

自然の力を借りて暑さをしのぐ生活も手軽にできるエコ対策と考え、以前から、庭には芝や花木を植えて照り返しを防ぎ、毎年、アサガオで「緑のカーテン」を作ってきた。今年はアサガオとゴーヤーの「緑のカーテン」にした。収穫が楽しみである。
(E・S)

● なかの21市民講座

足りない「コミュニケーション」平田オリザさんが講演

7月11日(土) 中央公民館で開催された「なかの21市民講座」の講演会へ行ってきました。

◆市民が企画・立案

「なかの21市民講座」は、公募の運営委員と中野市公民館4館の職員が協同して企画運営されている講座で、「21世紀のこれからをどのように生きていこうたらよいか、人間の根源的なところから問い深めて豊かな心を育み幸福に暮らせる地域づくりに役立てたい」という趣旨で行われています。



講師の平田オリザさん

◆平田オリザさんとは

今回の講師は、劇作家、演出家、劇団「青年団」主宰、大阪大学コミュニケーションデザインセンター教授の平田オリザさんでした。



コミュニケーション力について質問する参加者

平田オリザさんは、意外に小柄な方でしたが良く通る声で淡々とお話をしていました。

現在、平田さんが勤務されている大阪大学は、テレビドラマ「白い巨塔」の舞台になり医学部を中心に理系が盛んな大学です。大学院生向けのコミュニケーション教育を必須科目にしていこうと、このプログラムをつくるのが平田オリザさんの仕事だそうです。

◆社会が求める

コミュニケーション力

「あと数年もすると、演劇をやらないと医者になれないという時代が来るが、あまり演技のうま過ぎる医者も信用できないので、そこそこにしておいたほうがいい」と話していました。

また、「企業の方と会うと、『コミュニケーション力のある学生をよこしてほしい』と言われる、逆に考えると、それほどコミュニケーション力の不足が、社会や企業で問題になって

いる」と、そんな切口で講演を行っていました。

「これから価値の多様化の時代が来る。価値観がバラバラの時代が来るが、バラバラだけでは社会は成り立たない。今までは、価値観をひとつにするコミュニケーション能力が求められていたが、これからは、バラバラの価値観を持った人間同士が、どううまくやっていくか、そんなコミュニケーションの能力が求められている」と結びました。

◆講演を聞いて

今回の講演は、子どもたちを育てていく若いお父さんやお母さん、そして、子どもたちの教育に携わる皆さんにもっと聞いていただきたい講演でした。

平田オリザさんが主宰されている劇団「青年団」には、中野市出身の団員もおられることから、先生自身も信州中野には少なからず縁を感じているようでした。

● 第32回中高女性団体研修会

中高公民館運営協議会（中野市・山ノ内町・木島平村・野沢温泉村の公民館が組織）は生涯学習の推進を目的に、「分館役員等研修会」「中高女性団体研修会」「社会教育研究大会」を開催しています。



約100名が参加した「第32回中高女性団体研修会」

7月18日（土）に北部公民館で開催された「第32回中高女性団体研修会」は、中高地区の女性グループ（保健補導員会、母親クラブ他25団体）が一堂に集まり、それぞれの活動内容を理解しあい、共通の願いや課題について研修することが目的です。研修会に編集委員が取材に訪れ、活発な意見交換が行なわれた会場の雰囲気レポートします。



分散会の司会進行は参加者が務めました

●認知症についての講演

今年「認知症の予防・早期発見と上手な関わりかた」をテーマに約100名が、講演会、分散会（意見交換会）に参加しました。

小島つる江先生（グループホームにこにこハウス所長）の講演は「認知症の予防・早期発見と上手な関わりかた」と題し、身近な親族が認知症になった場合の対処方法などを中心に話されました。

認知症の上手な関わりかたとして「相手を否定したり、叱ることは逆効果。誉めることが大切」という話が印象的でした。

講演内容をメモを取る参加者も多く見られ、関心の高さが伺われました。

●活発な意見交換

分散会（意見交換会）は4グループに別れ、各団体の活動・課題や、テーマとなった「認知症の関わりかた」について意見交換しました。



参加者からは、「愚痴が話せる場が地域にほしい」「力仕事が多い介護は、男性の手助けが必要」と言った、実体験に基づいた意見が多く出され、改めて介護の大変さを痛感させられました。

●今後の展開に期待

活動分野も地域も異なる、様々な女性団体が、共通の課題となるテーマを発見し研修する「女性団体研修会」。女性ならではのテーマの設定や見解で、考えさせられる部分があり、有意義な研修会でした。

今後も独自の着眼点で共通の課題について研修してほしいと思います。

認知症
ほめて
上手に

小島つる江さんが講演

こん にちは 分館

東町分館は、中野市の東側に位置する東町区の分館ですが、以前よりは減ってきていますが、現在360戸前後の世帯があります。

区内には王日神社と、高梨館跡公園があります。ここを中心さまざまな行事が行われています。

王日神社関連では、7月に祇園祭が行われます。区民による天王神輿、小学校の子どもたちによる子ども神輿、若い人達による東青会の神輿が、区内、市内を練り歩きます。

また、11月のえびす講には、区をあげて大人も子どもも一緒に「百人えびす」で市内を巡回します。

諏訪大社の御柱と同様、7年に一度「御柱」も行われます。来年はこの御柱の年に当たり、準備は今年から行われます。

このように行事の多い東町ですが、近年は高齢化と少子化、人口の減少等で従来型の分館の行事や、その行事に参加していただくことがなかなか難しくなってきました。そこで、高梨館跡公園で、オープン参加型の「春の高梨

東町分館



賑わった「春の高梨祭り」

祭り」「秋の高梨祭り」を企画し、区民に負担のかからないコミュニケーションの方法を模索しています。
(分館長 金山 弘)

ふるさとの歴史

江戸時代初期、寛文五年(一六六五)中野村の検地帳には、現在の東町は「新田町」と載っている。以後ずっとこの町名できた。

東町の区誌によると、文化年間には中町・西町のように桜木町にも牛頭天王社が祀られ、天保八年(一八三七)の文書に初めて「東町」が見られるという。この頃から新田町も町場集落として充実し、

新田町から東町に

中野町三町の一角に加わった。幕末の慶応三年(一八六七)の史料「中野町軒並名前順帳」によると、東町総軒数は一三七(中町一一三、西

町一四四)。東町では商いが三二、職人三七。その他約半数は農業や日雇い。商いや職人も桑栽培の本数が書き込まれており、当時景気よかった

養蚕に取り組んだ半農だったことがわかる。

商いのトップは荒物屋・菓子屋ともに七、織維関係六、古道具三、魚屋二、豆腐屋・そうめん屋・醤油屋・一杯屋など各一。

職人では大工一〇、水車屋(穀屋)三、鍛冶屋・桶屋・紺屋・植木屋・仕立て屋・紬打ちが各二。鼈甲細工・銅細工・綿打ち・石工・上絵書きなどが各一。珍しいものは質屋二、商人宿(旅館)・湯屋(銭湯)各一であった。(阿部敏明)

ご近所 ニュース

梅雨の合間をぬって、7月5日(日)と7月14

(火)の2日間、中野市豊田地区球技大会が中野市営豊田野球場など4箇所で開催されました。

5日はソフトバレーボール、バレーボール、マレットゴルフの3競技、14日はゲートボールの試合が行われました。

豊田地区球技大会は、実

行委員会が14分館の交流と体力づくりを目的に開催しており、合併してから今年度で5回目を迎えました。両日とも晴天に恵まれ、若者からお年寄りまで、中には親子での参加もあり約400人が集まりました。

ソフトバレーボールとソフトボールでは、大きな声援が飛び交うなか好プレーが続出。熱の入った試合が展開されました。

マレットゴルフは、何回もOBで悩まされる人、コースのクセを讀んで挑むなど、常に笑いが絶えませんでした。

一方のゲートボールは、

赤と白に分かれての頭脳戦。なかなかの試合展開にうなずく場面がみられました。分館長、主事は、各会場を飛び回り休憩時間にお茶を配り、試合を写真に収めていました。

終了後、参加者は来年の再会を願い、分館での慰労会を楽しんでいました。



白熱した頭脳戦のゲートボール

市民作品展開催

中野市民作品展が7月18日(土)から20日(月)の日程で中野市中央公民館で開催され、出品者を含め約800人が来場した。

この市民作品展は地域の芸術文化の振興と生きがいづくりを支援し、市民の交流の場と憩いの場としていただくと、毎年「中野祇園祭」に合わせ開催しており、今年で29回目を迎える。

募集対象者は市内に在住、在勤の方とし、作品部門は絵画、工芸、書、写真、木彫り、手芸、切り絵、ちぎり絵、押し絵、陶芸、その他各種作品など幅広いジャンルとしている。

今年出品者24名(団体22・個人17名)、出品作品399点と昨年を上回る応募があり、前日は、搬入する出品者で賑わい活気にあふれるなか、展示が行われた。

今回は音声告知放送で市民作品展開催を知った方、家族や友人に勧められた方などの初出品者や銅版画、シャドウボックス、スキルギャラリーなど初部門の作品も加わり、会場は力作揃いの彩り豊かな

市民ギャラリーとなった。

来場者からは「身近に素晴らしい作品を制作される方がいられ、感激しました。」「皆さんの頑張りに励まされました。次年度は自分も出品したい。」「もつと来場者が多いといいですね。」「出品者からは「他の作品を見る機会となり、大変参考になりました。」「出品者どうし交流が持て、うれしかった。」「など率直な声がかれた。

皆さんの声を反映し「祇園祭には市民作品展に行こう!」を目指し、芸術文化の発信地として更に活気あるものにしていきたい。



昨年を上回る出品数のため、会場を増設

今月の伝言板

講座の詳しい内容につきましては、各公民館までお問い合わせください。

■中央 ☎ 22-2691 ■北部 ☎ 26-0677 ■西部 ☎ 23-1024 ■豊田 ☎ 38-2922

中央公民館	講座名	日時	場所	講師	備考
	公民館ギャラリー	中野俳句会の俳句展			
西部公民館	オヤジさん達の 生きいき世代塾 〈内容〉自分の健康と体力に自信がもてますか	・9/3・17 ・10/1・15・29 19:30~21:00 (全5回 毎回 木曜日)	西部公民館	長野県ボディビル連盟理事長 春原輝明 先生	<定員>20名 <対象>市内在住在勤の男性 <受講料>保険料として300円 <持ち物>運動のできる服装 シューズ、タオル <申込み>8月25日(火)まで
豊田公民館	森の探検 〈内容〉森の中にはどんな動植物がいるのかな? 探検してみよう!	8/29(土) 8:00~10:00	もみじ荘 駐車場集合	宮下 宏 先生	<定員>20名 <対象>市内小学生 <受講料>無料 <申込み>8月25日(火)まで

家庭教育学級公開講座

演題

「もっともっと子育てを楽しみましょう」

とき

平成21年10月17日(土)
午後1時30分~3時

ところ

中央公民館 講堂

※会場内での写真・ビデオ撮影、音声の録音はご遠慮下さい。

講師 高野 優先生

「マンガを描きながら話をする」独特のスタイルでおなじみ

受講料 無料

申込み

9月1日(火)より受付
託児あります

※お子様連れで会場に入場することはできません。

問合せ・申込み 中野市中央公民館 電話 22 - 2691 FAX 26 - 2342





紫露草／一本木 (月岡尚雄)

花郷

はなさと
Flower Home



ヒマワリ／上今井 (㊦)



サボテンの花／自宅 (きのこ)



クレオメ／自宅 (和田)



きれいなトンボ／浜津ヶ池 (メタ坊)

花と季節の写真 募集

宛先

〒383-0025
中野市三好町一丁目4番27号
中央公民館
☎22・2691
Eメール c-koninkan@city.nakano.nagano.jp

文化なかの編集委員会では、中野市内の花や季節の写真を募集します。未発表写真に限ります・四ツ切りまで(ワイドサイズも可)のプリント、デジタルデータ(未加工のもの)。
氏名、住所、連絡先、作品名、撮影場所、花の名前等を書き送って下さい。匿名希望やペンネーム掲載はその旨をお伝え下さい。随時募集します。

季節のコラム

夕顔の花

公民館の古典文学講座「源氏物語を読み味わう」の講師のT先生から受講生に今年もいただいた夕顔の苗、すくすくと蔓をのばし美しい白の大輪を楽しめるようになってきた。

光源氏の寵愛を受けた夕顔をしのんでか、夕闇から夜にかけて妖しく美しくそして儂げに芳香を漂わせて咲く。いただいた花は、あのウリ科のユウガオではなく、夜顔とも言われているようだ。夏の宵にぼんやりと闇に浮かぶ白い花は何とも幻想的で涼しげである。ちなみに、「夕顔の巻」に出てくる夕顔の花はウリ科であるとも言われている。